

今に息づく安積疏水を学ぶ

水不足に悩む原野に猪苗代湖から水を導き、豊かな大地へと変貌させた「安積疏水」の開さく着工から今年で140年。水の安定供給は、農業や住民の飲料水のほか、発電や工業にも利用され、本市発展の大きな力となりました。

SDGs未来都市に選定された本市にとって、豊かな未来につなげるまちづくりに欠かせない、「安積疏水」について学ぶ今の動きを紹介します。

問国際政策課 ☎924—3711



01 苦難を乗り越えた原点を体感する JICA (独立行政法人国際協力機構)

明治政府初の国営農業水利事業「安積開拓・安積疏水開さく事業」。開拓者たちの思いや技術、開発の背景などを学ぶため、途上国の現場を指揮する海外研修員や本部職員が、関連施設を訪れています。



▲上戸頭首工で維持管理を学ぶ



▲開成館で経緯を聞く職員



JICA東北所長
須藤 勝義さん

貴重な“開発経験”をつなぐ

官民連携と近代技術の導入により建設された水路が140年にわたって維持管理され、複合的な開発効果をもたらした経験は、途上国発展の手本になります。

02 子どもたちが地域への愛着を深める はやまっ子 (中央公民館講座)

市内の小中学校から集まった30人が、日本遺産「一本の水路」ゆかりの地を巡り、安積疏水の歴史や背景を学んでいます。11月には「こども語り隊」として、安積疏水バスツアーのガイドも務めます。



▲発声のポイントなどを伝授



▲2月の発表に向けて練習



はやまっ子2年
山口しょうこさん

安積疏水の語りを勉強中

難しい言葉がたくさんありますが、頑張って覚えています。11月にバスツアーのガイドで語るのが、今から楽しみです。みんな来てくっちなさい!

Topics

明治32年に初めて郡山に電気が灯って、今年で120年。疏水の完成をきっかけに、地元有力者や実業家 渋沢栄一氏らが参加し、水力による発電事業が始まりました。



操業120周年

明治32年運転開始

▶沼上発電所 (熱海町)

安積疏水の水路の落差を発電に利用した最初の水力発電所で、日本初となる長距離高圧送電に成功しました。



操業100周年

大正8年運転開始

▶竹之内発電所 (熱海町)

安積疏水の流れを利用した2番目の水力発電所。家庭への電力供給を増やすために建設されました。

Information

〈日本遺産を歩いて学ぶ〉

一本の水路みちウォーク2019

日時 9/29(日) 8:30~(ほっとあたま集合)

定員 300人 内容 安積疏水神社、上戸頭首工、沼上発電所などを歩く

申込 9/5(木)まで

※コース・料金・申込みなど、詳しくはお問い合わせください。

問 県ノルディックウォーキング協会 ☎932—8483

〈開成館企画展で学ぶ〉

歴史点描—安積疏水ゆかりの地を巡る

期間 10/1(火)~11/4(休)

10:00~17:00(入館は16:30まで)

休館日 毎週月曜日 料金 一般200円、高校・大学生100円 ※中学生以下、65歳以上および障害者手帳をお持ちの方は無料

問 開成館 ☎923—2157



〈市政きらめき出前講座で学ぶ〉

日本遺産「一本の水路」の物語

市職員が講師として、皆さんの元へ伺います。

所要時間 60~90分

対象 10名程度集まればどなたでも

申込 開催希望日の2週間前までに申込書を提出

問 国際政策課 ☎924—3711

